

ちょっとの工夫で差がつく!

スマホで楽しむ写真撮影



最近のスマートフォンには高性能なカメラが搭載されており、誰でも簡単にすてきな写真を撮ることができます。ただ、それにはちょっとしたコツが必要。初心者でもできる簡単テクニックをお伝えします。

旅行先での美しい風景を印象的に撮りたい 風景撮影のポイント

- 水平で撮る
カメラに搭載されている機能「グリッド線」を活用しましょう。
- 写したいものだけ
風景写真では、周りの余計なものが写り込んでしまいがち。印象的に感じたものだけを画面に収めるようにしてみましょう。
- あえて暗く
夕日など薄暗い時間に撮影すると、カメラが自動で明るく写してしまいます。そんなときは、明るさ設定を少し暗くしてみましょう。印象的な写真が撮れます。

まずは

グリッド線の設定を

簡単に水平で撮れる！
グリッド線を出す方法

- ▶iPhone ホーム画面から「設定」→「カメラ」→「グリッド」でオンにする
- ▶Android カメラアプリの中にある「設定」→「グリッド」でオンにする



一番写したいものをグリッドの交差点において撮るとバランスの良い写真になります。



「いいね！」

特別な日のごちそうや手料理の「おいしそう」を伝えたい 料理撮影のポイント

- 光が大事
光の使い方がとても大切。屋内の照明はあまりきれいに写らないことが多いので、窓際など自然の光が入る場所で撮影しましょう。料理の後ろ側から光が当たるように撮ると、よりおいしそうな写真に。
- 全部入れない
机に並んだものを全て写そうとすると、どこに注目すればいいのか分からない写真になりがち。思い切って1皿に寄り、他のものが切れてしまうくらいの大膽な構図にしてみましょう。



「イマイチ...」

明るさを調整するともっとすてきに



「イマイチ...」

全部入れようとしてどれが主役かわからない...



「いいね！」

大切な人の大切な一瞬をきれいに残したい 人物撮影のポイント

- スマホの角度が大事
スマホを手を持って撮影する際、スマホが傾いていると人物の頭が大きく見えたり、形がゆがんでしまうことがあります。スマホを真っすぐ構えるようにすると、自然でバランスの良い写真になります。

ちょっとおしゃれな撮り方に挑戦!

モノクロ撮影



多くのスマートフォンには、モノクロモードが搭載されています。モノクロで撮影すると、カラー写真とは違った独特の雰囲気。見る人の想像力を刺激し、写真に込められたストーリーを深く感じさせてくれる魅力があります。

企画政策企画課 企画調整係 ☎お太助フォン 42-5612

今日の

市長コラム



スポーツから生まれる交流 安芸高田の多文化交流事業

こんにちは。市長の藤本悦志です。安芸高田市には現在約1,100人の外国人の方が地域の一員として共に暮らしています。彼らの中には、言葉や文化の違いから慣れない環境での生活に不安を感じている方も少なくないようです。

昨年12月15日(日)、多文化交流事業としてサンフレパークでサッカー交流イベントを行いました。このイベントは、昨年吉田高校の生徒が「サッカーを通じて多文化共生を推進したい」という思いを市に提案していただき実現した取り組みです。

雪が降る中での試合でしたが、真剣勝負で白熱した試合は迫力満点！ 激しく攻守が入れ替わる試合が繰り広げられました。

試合後には選手同士が笑顔で言葉を交わし写



5か国7チーム107人の選手をはじめギャラリーを合わせ200人以上が参加。

真を撮り合う姿もあり、サッカーを通じて交流が生まれたことをうれしく思います。参加者からは「素晴らしい会場で、とてもエキサイティングな試合ができ本当に楽しかった」という声もありました。

スポーツには、人と人の距離を縮める力があることを再確認しました。ですが実際の暮らしの場では、言葉や習慣といった「壁」が大きく立ちちはだかることでしょう。そして、多文化共生は相手と距離が近くなり、知れば知るほど、互いが分かり合える喜びと、分かり合えないことを知る辛さがあり、それこそが多文化共生の「本当の壁」かもしれません。

今後も市として、「本当の壁」と向き合い、乗り越え、安芸高田市に新たな活力を生み出す取り組みを継続していきたいと考えています。

子どもが主役!

未来をつくる 学びのチカラ

向原小学校



みんなで協力し合い、休憩時間も使ってやり遂げました。



「自律」の学びで未来を育む、 地域と連携した「えびす茶作り」

向原小学校では学校が掲げる教育目標「自律」をテーマに、地域との連携を生かした主体的な学びを進めています。3年生は総合学習で、地域の特産品「三矢えびす茶」の原料であるハブ草を活用した食農教育を実践。JAひろしま向原支店の協力のもと、種まきから栽培、刈り取り、試飲までを体験し、自ら考え行動する力を育てています。また、3年～6年生が取り組む「一人一探究」では、えびす茶ゼリー作りに挑戦する児童も。児童が自らのアイデアで学びを深めています。

- 僕のおばあちゃんもハブ草を育てていて、一緒に家で植えたこともあります。小学校では、土が乾いていたら水をあげたり、毎日お世話しました。小さかった苗が僕と同じくらいの身長まで大きくなるのがすごいです。鎌で刈るときには、細い茎や太い茎があって、1本ずつ丁寧に刈りました。3年生9人で茶葉を袋に詰めるのは大変だったけど、みんなで手分けして頑張りました。乾燥すると葉が茶色になるのが不思議だなと思いました。
- 3年生 川崎 轟竜くん



「大人になったらえびす茶を育てる人になりたい」と、将来の夢を描いた絵を持ってにっこり。

☎学校教育課 学校教育指導係 ☎お太助フォン 42-5628